

第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会（第25期・第12回）

議事要旨

1 日 時 令和3年10月19日（火）19:30～22:30

2 会 場 ビデオ会議

3 参加者(敬称略)

分科会委員：相澤彰子、秋葉澄伯、岡本尚、郡山千早、
小松浩子、高井伸二、高倉弘喜、中川晋一、糠塚康江、
平井みどり、三嶋廣繁（委員13名中11名出席）

オブザーバー：神田玲子、喜連川優、下條真司、武田洋幸、館田一博
丹下健、中村眞、望月眞弓

講演者： 北野宏明、楠正憲、高倉弘喜

事務局： 増子、小川、穴山

4 議 事

（1）分科会の活動について

- ・国際学術会議（ISC）において、次期会長に小谷元子連携会員、副会長に白波瀬佐和子会員が選出された
<https://www.scj.go.jp/ja/int/icsu/index.html>
- ・12月開催予定の学術会議総会の開催形態に関し、本分科会における北野氏の予測等を踏まえ、秋葉委員長より武田部長へ見解を提出する。
- ・第13回分科会：福井、和歌山、東京 iCDC の活動について

（2）講演と質疑

「COVID-19 感染に対する今後の対策について」
北野宏明氏（内閣官房新型コロナウイルス感染症対策・AIシミュレーション
検討会議座長、人工知能研究開発ネットワーク会長）

《講演概要》

- ・ワクチン接種シナリオ27パターンにおける予測結果一覧
- ・接種率の違いによるシミュレーション（年末に向けて）
- ・東京における重症者数の予測
- ・人流における影響の考察（東京）

- ・ワクチンパスポート等導入効果（ロンドン、シンガポール）と東京の現況
- ・人流の質の変化を促す可能性
- ・全国の重症者数と短期感染者数の予測
- ・実効人流の大幅減少（繁華街）とワクチン接種の進展
- ・人流の質的变化
- ・新規感染者数と非接種者自粛率
- ・リスク行動関連ツイートと陽性者数の推移

《質疑応答》

Q：次のピーク予測が12月又は2月頃と二分された結果となったのは、人流抑制の解釈に依ると考えられるからか、また季節的要因はあるのか。

A：年末にどれくらい人流が戻るかによると思われる。

ワクチンによる感染予防効果は2、3月には落ちるため、その頃に感染者が増える点では皆一致している。

季節ファクターはあると思うが、どのくらい感染拡大に寄与しているかについて、現段階では測りにくい。

Q：インド等他国でもワクチン接種率が低いのに、感染のピークが落ちてきているのも、自然なオシレーション（揺れ）のせいなのか。

A：インド等海外データについては諸説分かれている。疫学調査のデータをより詳しく見ないとわからないが、地域、集団による差もある。

Q：自然にオシレーションを示す原因は何か。

A：日本の場合自粛から人流増加へというサイクルがある。また秋に感染者が少ないのは、環境ファクターも寄与しているだろう。自粛と行動のサイクルに加えワクチン接種も考慮すれば、感染の動きは変わってくるだろう。

A：この感染症は劇的に下がっているが、上がる時も劇的に上がる。今回下がりが早かったのはワクチンが押したのだろうと分析している。季節的要因はあるかもしれないが、ウイルス学的には季節的要因というよりも環境要因で、気候と換気のおかげで秋に感染者が減るのではないかと思う。

Q：四季がない国はどうか。

A：四季がない国は、このような綺麗なパターンにならず、日本のようにサイクル性がある国は珍しい。

A：気候と人々行動の問題があり、自然環境か社会環境か洞察と解析が必要と思う。

Q：出口戦略に関して決め手は何か。また抗体カクテルについて何か新しい情報はるか。

A：重要なのはブースター接種、ワクチン接種、ワクチンパスポート及び人流抑制である。抗体カクテルについてはどのくらい提供できるか、枯渇させないロジスティクスをいかに構築するかが重要。また、抗ウイルス剤が認可されればワクチン接種を見送る人が増えることを危惧している。

② 「COVID19 感染症と情報システム」

楠 正憲氏 (デジタル庁デジタル社会共通機能グループグループ長、
前政府 CIO 補佐官 (～2021 年 8 月)、Japan Digital Design 株式会
社前 CTO)

《講演概要》

- ・ 特別定額給付金オンライン申請について
申請フロー、申請受付データ処理、住民システムの寸断、
簡便なシステム構築の例 (加古川市)
子育て世代生活支援特別給付金のプッシュ型給付
国と地方の情報システムの構造
- ・ ワクチン接種管理における課題
VRS (ワクチン接種記録システム) における課題
- ・ 接触確認アプリ COCOA における課題と論点
接触確認アプリ提供へ向けた体制の見直し
開発経緯と運用体制 (頻繁に変更される API 仕様との闘い、
COCOA1.1.4 で起きた問題)
- ・ これからの政府のデジタル化と課題

《質疑応答》

Q: COCOA のシステム構築の際、感染抑制に対しどう役に立つかを医学面から
根拠づけた人はいるか。

A: COCOA はシンガポールの例をもとに医療関係者が発案したものだが、海外の
プライバシーの議論等を考慮し今の形になった。

Q: 今後、医療情報とマイナンバーを連携させる方向での法律変更が視野に入
れられているのか。

A: その点については、医療関係者との議論も蓄積されてきているが、国民の理
解も必要であり、慎重に考えなければならないと思う。

Q: 健康管理システムの標準化について、作るならば法律等は国がきちんと筋道を
立て用意し、最後に地元のベンダーや自治体に自由を与えらせてほしい。
次世代向け共通システムに対する現場の期待は大きい。

A: VRS の経験を踏まえ、目下主要な健康管理システムベンダーと連携している。
自治体システムの三層分離等問題もあるが、ベンダーとの協議だけでなく自治
体からも標準化への声を上げて頂きたい。

Q: 将来的には VRS を廃止し、マイナポータルに医療情報を載せる方向で、そこに
ワクチン接種記録も含めていく流れなのか。様々な課題もあると思うが、今後
どのような展望を持っているのか。

A: 課題もあり慎重に進めており、展望を示すことは難しい。地域における都道府
県の関係や、保健所との関係など、システムの問題のみならず政治的な問題の
ため対応が困難な部分もある。

Q: 保健所に限らず、例えば教育委員会に関しても学校ネットワークと自治体とが繋がらない等、様々な領域で同様の問題を抱えていると思うがどうか。

A: セキュリティが厳しい世の中であって、境界を超えた業務を上手くやり取りする仕組みができていないと感じている、

Q: IT 先進国に学ぶことは難しいのか。

A: 法体系や雇用の流動性など条件が違う国々と比較すれば、人口が多くて IT 化が難しい割に、日本はうまくやっていると思う。

③ 「デジタル活用による感染症対策の課題」

高倉弘喜氏（日本学術会議特任連携会員、大規模感染症予防・制圧体制検討分科会委員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所教授）

《講演概要》

- ・ IT 先進国の状況
- ・ 台湾マスク実名販売まで 20 年
- ・ 在宅療養徹底のため
- ・ IT 活用が困難な国
- ・ 前途多難なワクチン接種証明
- ・ ワクチン接種デジタル証明書の課題
- ・ 医療分野における IT 導入
- ・ HER-SYS 新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理システムについて
- ・ 社会のデジタル化の第一歩 医療情報のデジタル化
- ・ 匿名性の問題

《質疑応答》

電子処方箋が稼働すれば、薬局と医療機関の処方データは共有されるが、それ以外の病名や臨床検査値等については、どの時点で共有化されるのか。

また、処方箋は患者の同意により薬局で開示するプロセスが入るが、薬局で直接行われるようになると個人情報に関する本人の同意を如何に取るのか。

A: 情報共有については、本来数年以上かかるものを、2 年程度でやることになる。そのため不具合も出ることもある。

本人同意について、薬局にてマイナンバーカードによる本人確認を行う時点で取るということになる。そのプロセスも今後デジタル化される予定である。